

日本で初めての親水公園

江戸川区にはかつて420kmの水路や川があり、農業用水などとして利用されていました。都市化とともにその役目を終え、「親水」という新しい憩いの場に変わりました。

親水公園

比較的小幅のある水路の中に、せせらぎや散歩道、水遊びができるゾーンやアスレチック遊具などがある、水と親しめる公園です。

①古川親水公園 1974年(昭和49年)完成

古川は、長い間、田園地帯の水路として活用されていましたが、都市化による工場や家庭の汚れた水が流れ込み、いつしか悪臭を放つドブ川になっていました。川を埋め立てる話もありましたが、古川周辺の住民から、ぜひこの川を残してほしいという強い要望が寄せられました。そこで、みどりと清らかな川の流れを復活させ、都市の中に「親水」という新しい考え方で古川を整備し、1,200mの自然環境を創りだしました。古川親水公園は、今では世界中で紹介されています。



▲整備前の古川



▲整備後の古川親水公園

②小松川境川親水公園 1985年(昭和60年)完成

2番目の親水公園として清流を復活させました。江戸川区の親水公園では一番長い3,930mです。



③新長島川親水公園 1991年(平成3年)完成

新しいまちと古いまちの一体化をテーマにせせらぎや噴水を創り、ケヤキやサクラ、ツツジなどの木や草花で彩られた魅力ある景観を楽しめる、全長530mの親水公園です。

④新左近川親水公園 1994年(平成6年)完成

親水公園の中で最も広い水面と河川敷を生かし、つりやカヌー、バーベキューなどが楽しめる、全長750mの親水公園です。



⑤一之江境川親水公園 1996年(平成8年)完成

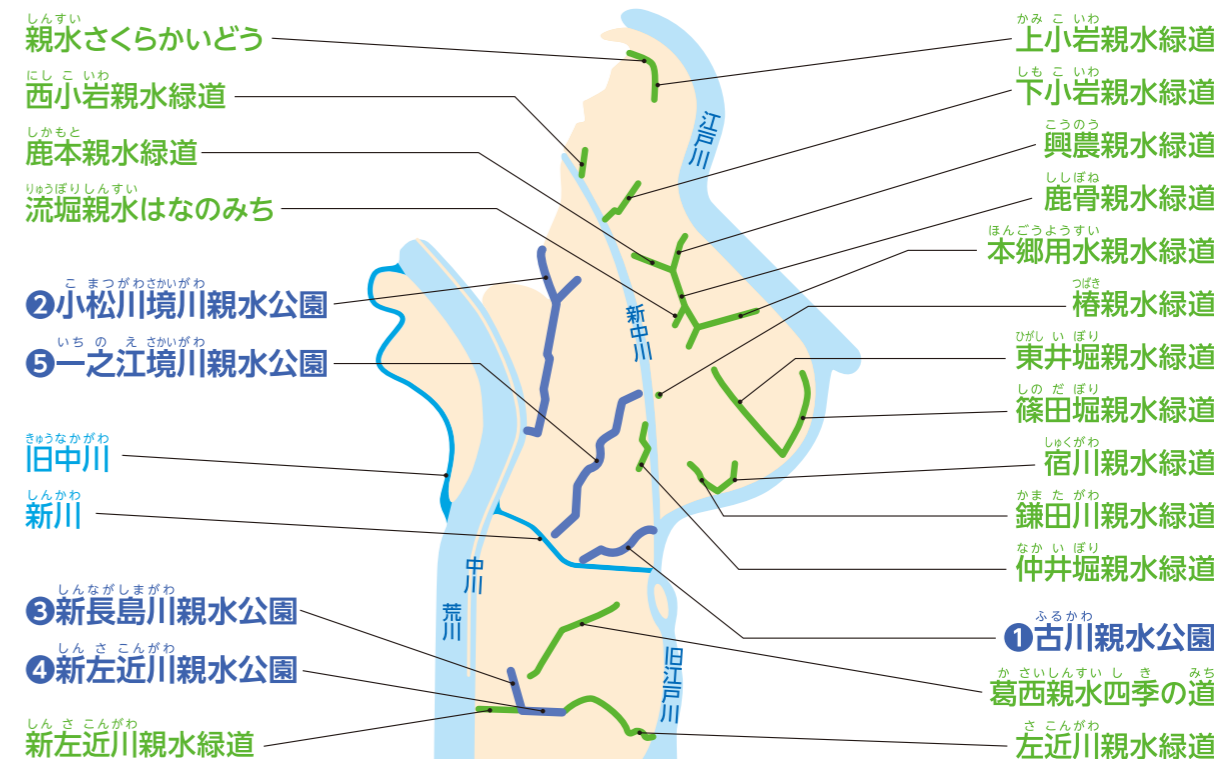
野の川の再生をめざし、生きものがすめる自然とふれあえる、全長3,200mの親水公園です。

親水緑道

親水緑道は、親水公園に比べ規模の小さなもので、道路にそって幅1mほどの小川が流れる歩行空間です。魚の泳ぐ姿を楽しみながら、木陰を散歩することができる「みち」です。

親水河川

水門などで人工的に水位を下げて、堤防を低くした河川です。人にも自然にもやさしい水辺の空間となっています。



各親水施設は、愛する会などのボランティアによる清掃活動などによって支えられています。

■ 親水公園 (5路線) ■ 親水緑道 (18路線) ■ 親水河川 (2路線)